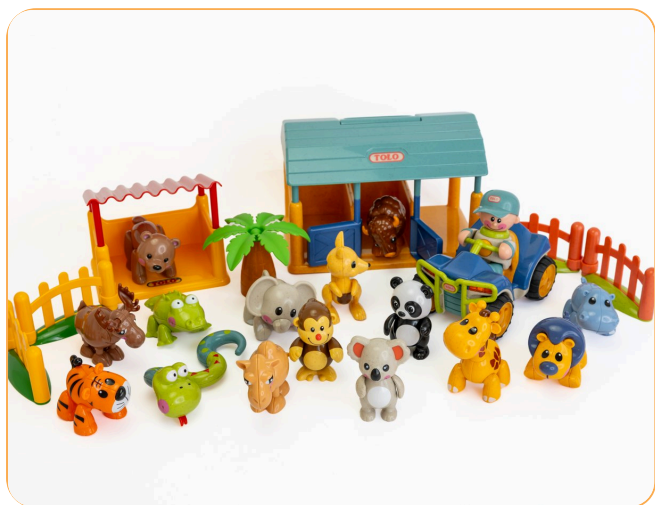




First Friends Animal Safari Set

動物、自然保護区のレンジャー、柵を使って、分類したり、数えたり、組み合わせたりします。生息環境・大きさ・食性による分類、初歩的な算数の力、ごっこ遊びを支えます。

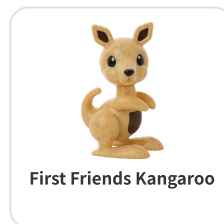
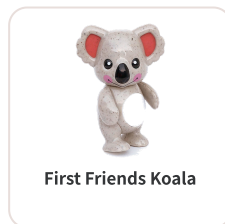
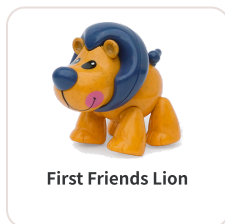
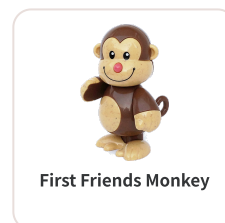
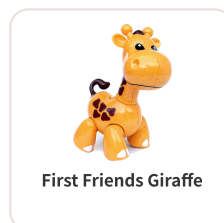
内容

動物15頭、クアッドバイク、フィギュア2体、柵、えさ箱、干し草の俵

対象市場

家庭・教育の両方

■ セットの内容



■ 子どもが学ぶこと



分類

わかりやすいルール、与えられたルール、そして子どもが考えたルールで分けます。



はじめての数

群れと足を数えます。干し草を公平に分けます。



世界を知る

暑い場所と寒い場所。出会えるのはどの動物で、決して出会わないのはどれ？



言葉

名前、鳴き声、しま模様、斑点、長い鼻、育児袋、しっぽ。



お世話と責任

レンジャーはえさと水をあげ、柵を直します。動物は世話をしてくれる人に頼っています。



社会的な関わりを伴う遊び

1人にレンジャーのフィギュアを1体ずつ渡し、仕事を分担します。柵を直すのは誰でしょうか？

■ テーマ

野生動物

すみか

暑い場所と寒い場所

動物の福祉

分類

数えることと分け合うこと



■ ひとつのセットで5年間遊べる



■ セットの4つの使い方

ひとりで発見する：12か月以上
動物2、3頭とクアッドバイク。鳴き声、カチッ、短いドライブ。

大人と2人で遊ぶ：2歳以上
えさをあげる、分ける、分け合う。大人がルールを決め、子どもが動物を置きます。

少人数グループ：3～5歳
レンジャーの一日や「世界のどこ？」の活動を、子ども1人につきレンジャーのフィギュア1体、または動物2頭ずつを使って行います。

常設の遊びコーナー
砂や芝のトレーに柵と一緒に置いて、野生動物のテーマ全体に使えます。動物が15頭いるので、誰も待たずに遊べます。

■ 保育の現場で

小さな部品なし。動物は歯固めにも安心

拭いてきれいにできます。砂のトレーや屋外にも使えます

柵とえさ箱は平らに収まります。動物は深いトレー1つに入ります

どの動物も1頭ずつ購入できます。セットではなく1頭だけ交換できます

■ 観察のポイント

☐ 鳴き声を、正しい動物と結びつけられますか？

☐ 分けるルールを自分で考えて、言えますか？

☐ 動物の住む場所に、理由を言えますか？

☐ どの動物にえさをあげたか把握していますか？

☐ 数えずに、干し草1俵と動物1頭を合わせていますか？

☐ 子どもたちは、レンジャーの仕事を分担していますか？

■ 学びの領域

[身体の発達](#)
[コミュニケーションと言葉](#)
[人間関係と心の発達](#)
[身近な世界の理解](#)
[数学](#)
[表現活動](#)

■ セットを広げる

分類をより豊かにする仲間です。極地の動物を加えて「出会えるかな？」ゲームに、恐竜を加えて「昔と今」にも。

First Friends Polar Bear

First Friends Penguin

First Friends T Rex

First Friends Koala



1 だれの声？

12〜30か月
子ども1〜2人+大人

用意するもの

鳴き声のはっきりした動物4頭：ライオン、ゾウ、サル、ヘビ。

進め方

1. 動物4頭を立てます。名前を言い、鳴き声を一緒にまねします。
2. 1つの鳴き声を出します。「だれの声？」子どもに手に取ってもらいます。
3. 手に持ってもらい、鳴き声をまねします。
4. 交代します。子どもが鳴き声を出し、大人が動物を探します。ときどきわざと間違えます。

学びのねらい

聞く力

マッチング

動物の鳴き声

名前を言う

やさしく — 動物は2頭。ライオンとヘビ。

難しく — はっきりした鳴き声のない5頭目を加えます。キリンは何で言う？

注目ポイント

鳴き声と動物を結びつけるには、聞く力と記憶する力の両方が必要です。大人がわざと間違えたときに訂正できるお子様は、鳴き声と動物の対応をしっかり覚えていきます。

2 動物にえさをあげよう

18か月〜3歳
子ども1〜2人+大人

用意するもの

クアッドバイクとレンジャー、干し草の俵、床に間をあけて置いた動物3頭、えさ箱1つ。

進め方

1. クアッドバイクに干し草を積みます。「動物にえさをあげる時間だよ」。
2. 最初の動物のところまで走ります。止まります。干し草をえさ箱に入れます。「はい、キリンさん」。
3. 次の動物へ。くり返します。子どもが運転して、えさをあげます。
4. 「まだえさをもらっていないのは誰？」見て、見つけて、一周を終えます。

学びのねらい

全身運動

旅

お世話

終わった子を覚えておく

やさしく — 動物は2頭。大人が運転して、子どもがえさをあげます。

難しく — ライオンは干し草を食べません。代わりに何が必要？

注目ポイント

どの動物にえさをあげたか覚えていますか？ 済んだことを覚えておくにはワーキングメモリが必要です。この力を使うことで、単に乗り物を走らせるだけでなく、えさやりの仕事を最後まで進められます。

3 パークを分けよう

2〜4歳
子ども1〜3人+大人

用意するもの

動物すべてと柵。囲いを2、3個つくります。

進め方

1. 囲いをつくります。「大きい動物はこっち、小さい動物はあっち」。一緒に分けます。
2. 囲いをあけます。新しいルール。「しまかまだらはここ、無地はあっち」。
3. ルール3。「木に登れるのは誰？」子どもたちに議論してもらいます。
4. 子どもがルールを選び、大人やほかの子が当てます。

学びのねらい

分類

分類

推論

ようすを表す言葉

やさしく — 囲いは2つ、わかりやすいルールは1つ、動物は4頭。

難しく — 2つのルールを同時に。大きいかつ4本足。

注目ポイント

特に大切なのは3つ目の段階です。お子様が自分で分類のルールを考え、そのルールを言葉で説明できれば、分類の仕組みを理解していることがわかります。どのお子様がこの段階に達しているか記録しましょう。



4 干し草を分けよう

3〜5歳
子ども1〜3人+大人

用意するもの

動物6頭、干し草6俵（積み木でもかまいません）、えさ箱。

進め方

1. 動物6頭を並べます。1頭ずつ触れながら、干し草を1俵ずつ配ります。「足りたかな？」
2. 1俵を取り除きます。もう一度配ります。「もらえなかったのは誰？」
3. 2俵足します。配ります。「2俵あるのは誰？それは公平かな？」
4. 「動物6頭には、何俵必要？」と尋ね、数えて確かめます。

学びのねらい

1対1対応 分け合う 多い・少ない 数える

やさしく — 動物3頭、干し草3俵。数えずに合わせます。

難しく — 動物6頭に干し草12俵。1頭いくつ？ 分けて、数えます。

注目ポイント

数えずに干し草1俵と動物1頭を対応させることは、1対1対応です。動物と干し草の数をそれぞれ数えて、足りるかどうかを判断することが次の段階です。

5 世界のどこ？

3〜5歳
子ども2〜4人+大人

用意するもの

動物すべて。布3枚：黄色（草原）、緑（森）、青（川）。あれば地球儀か地図。

進め方

1. 3つの場所を広げます。名前と、どんな感じの場所かを話します。
2. 「ワニはどこに住んでいる？」子どもに置いてもらいます。次にライオン、パンダ、カンガルー。
3. 近くに水が必要な動物を探し、川のそばへ移します。
4. 「パンダとカンガルーは出会えるかな？」と尋ね、遠く離れていることを話します。

学びのねらい

世界を知る すみか 推論 語彙

やさしく — 場所は2つ。水か陸。

難しく — 地球儀か地図で、それぞれの動物の住まいを探し、指をのせます。

注目ポイント

「ワニには水が必要だから」「パンダは竹を食べるから」など、理由を説明しているかに注目しましょう。動物と、その生息地で必要とするものを結びつけられることは、単に置き場所を選ぶだけでなく、生息環境を理解していることを示します。

6 レンジャーの一日

4〜5歳
子ども2〜3人+大人

用意するもの

セットすべて。絵つきの簡単な仕事リスト：干し草、水、柵、数える。

進め方

1. 子ども一人ひとりにレンジャーを渡し、リストの仕事に分けます。
2. 朝を演じます。クアッドバイクでえさの見回り、えさ箱に水。
3. 問題発生。柵が倒れて、サルが外に出ました。直すのは誰？サルを連れ戻すのは誰？
4. 夜。動物を数えて入れます。「みんないる？」リストにチェックを入れます。

学びのねらい

協力 順序立て 問題解決 数える

やさしく — 仕事は2つだけ、1人1つずつ。

難しく — レンジャーの1人がお休みです。もう1人はどうやって全部の仕事こなす？

注目ポイント

子どもたちは仕事を分担し、お互いに進み具合を確認していますか？共通の仕事を進めるために役割を調整することは、協同的な遊びの一つです。夕方に動物を数えて確認することで、活動を自然に締めくくられます。

